



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ソルガム・ジャパン・ホールディングス

コード番号 6636 URL <http://sorghum-io.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 赤尾 伸悟

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長

(氏名) 中原 麗

TEL 03-3449-3939

四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	1,399	0.4	△506	—	△676	—	△651	—
28年3月期第2四半期	1,393	162.1	△845	—	△866	—	△934	—

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 △524百万円 (—%) 28年3月期第2四半期 △916百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	△29.68	—
28年3月期第2四半期	△52.61	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	2,033	1,249	60.2
28年3月期	2,128	1,303	60.8

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 1,224百万円 28年3月期 1,295百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,815	36.6	277	—	148	—	63	—	3.36
	～5,100	～82.6	～488	—	～475	—	～450	—	～24.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	23,319,944 株	28年3月期	21,114,212 株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	167,538 株	28年3月期	167,538 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	21,936,464 株	28年3月期2Q	17,766,074 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3頁「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年9月30日)における世界経済は、中国の景気減速や英国のEU離脱問題等の影響から先行きに不透明感が生じています。

また、当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、円高などにより投資に対する姿勢が慎重化し、踊り場局面から脱せない状況に加え、今年4月中旬に発生した熊本地震による深刻な被害が足許の景気を下押しするなど、その先行きは不透明な状況にあります。

当社グループの中核事業領域である半導体業界、電気機器業界においては、引き続き国内外の業界再編が進行しており、世界経済の影響と相まって不透明感があり、当社グループにおいても継続的な顧客の価格性能比率向上の要求に応えるため、依然厳しい状況にありました。

そのような経営環境の中で当社グループは、従来の中核事業領域であるテストソリューション事業(半導体事業)、レストラン・ウェディング事業及び新たな収益事業領域として位置付けるバイオ燃料事業を展開しております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

テストソリューション事業におきましては、売上高7億85百万円(前年同期比7.5%増)となりました。国内半導体業界では安定的な需要を維持する自動車産業と堅調に立ち上がりつつあるIoT産業に下支えされ、第1四半期連結会計期間に引き続き技術者の不足感と高効率要求により、当社グループの開発業務受託及びプラットフォームを活かした製品は、受注及び販売共に順調に推移いたしました。損益につきましては、様々な原価低減策を講じた結果、セグメント利益76百万円(前年同期比65.9%増)となりました。

レストラン・ウェディング事業におきましては、売上高3億84百万円(前年同期比39.2%減)となりました。また、前連結会計年度より着手しています不採算店舗の統廃合、人材の配置転換による経営基盤及び赤字体質の改善策を継続して実施しております。さらに、仕入先の見直しによる仕入れコストの削減、一部店舗においては営業時間の変更を行うことで稼働率が低下する時間帯の人件費を圧縮しております。さらに、第1四半期連結会計期間より継続しています各店舗のコンセプトに合わせた料飲メニュー、食材、価格等による競合他店との差別化を実施しております。なお、結婚披露宴の成約件数につきましては、平成28年9月末時点で62件(前年度実績57件に対し108.8%)であり、今期の成約目標80件に対し77.5%の達成率となっております。また、青山店につきましては、結婚披露宴会場の用途を限定せずメインダイニングを企業説明会、テレビドラマ撮影、コマーシャル撮影等に提供し、閑散期の稼働率の向上を図っております。これらの施策によりレストラン・ウェディング事業におけるセグメント損失につきましては80百万円(前第2四半期連結累計期間はセグメント損失1億27百万円)となりました。

バイオ燃料事業におきましては、第1四半期連結会計期間に続きメキシコにおいてスーパーソルガム種子の売上が計上されたことから売上高2億29百万円(前年同期は14百万円)となりました。また、平成28年9月にはメキシコ合衆国農畜水産農村開発食糧省(SAGARPA)より公式認定作物として栽培マニュアルへの登録も決定されるなど堅調に推移しております。さらに、ベトナム及びタイにつきましても各国現地法人を通じてスーパーソルガム種子販売を推進しております。東南アジア諸国では、急激な経済発展、人口増加により深刻なエネルギー問題・食料問題を招いており、当社が取り扱うエネルギー作物であるスーパーソルガムは、その成長の早さや収穫量の多さから、当該問題を解決できる可能性がある植物として期待が寄せられており、タイ、ベトナムにおける種子販売等、その他の国々においても、各顧客との交渉を進めております。これらのことから、バイオ燃料事業におけるセグメント損失は2億41百万円(前第2四半期連結累計期間はセグメント損失5億46百万円)となりました。

以上の結果、売上高は13億99百万円(前年同期比0.4%増)となりました。

損益につきましては、テストソリューション事業において、様々な原価低減に取り組むことにより業績が改善したものの、バイオ燃料事業の立ち上げに係る営業費用が影響したことから、営業損失5億6百万円(前年同四半期は営業損失8億45百万円)、経常損失6億76百万円(前年同四半期は経常損失8億66百万円)及び親会社株主に帰属する四半期純損失6億51百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失9億34百万円)を計上いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は20億33百万円となり、前連結会計年度末に比べ95百万円減少いたしました。流動資産は13億63百万円となり、前連結会計年度末に比べて5百万円減少いたしました。固定資産は6億70百万円となり前連結会計年度末に比べて89百万円減少いたしました。そのうち、有形固定資産は93百万円となり5百万円減少いたしました。また、無形固定資産は3億16百万円となり80百万円減少いたしました。主な要因はのれんの減少62百万円であります。さらに、投資その他の資産は2億60百万円となり3百万円減少いたしました。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は7億83百万円となり、前連結会計年度末に比べ41百万円減少いたしました。流動負債は6億51百万円となり、前連結会計年度末に比べて9百万円減少いたしました。固定負債は1億32百万円となり、前連結会計年度末と比べて31百万円減少いたしました。主な要因は長期繰延税金負債の減少29百万円であります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は12億49百万円となり、前連結会計年度末と比べ53百万円減少いたしました。これは、主に新株予約権の行使及び第三者割当増資により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ2億54百万円増加したものの、親会社株主に帰属する四半期純損失6億51百万円を計上したことによるものであります。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の60.8%から60.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期通期の連結業績予想につきまして、テストソリューション事業は堅調に推移しており、当第2四半期連結累計期間の売上につきましては当初予想値である7億67百万円を18百万円上振れし、7億85百万円の計上となりました。

レストラン・ウェディング事業につきましては、不採算店舗の閉店、仕入先の変更によるコスト削減、人材の配置転換、営業時間の見直しによるレストラン部門の赤字幅圧縮を第1四半期から継続して実施しております。また、ウェディング部門につきましては、自社募集による集客に限界があるため今期より取組んでおります紹介会社を活用することで成約件数を確保しております。さらに、結婚披露宴の開催されない週末につきましては、第1四半期からの施策である企業説明会、展示会、ドラマ撮影、コマーシャル撮影等にメインダイニング、ラウンジの提供を行うことで稼働率の向上、収益の確保を図っております。なお、施設老朽化による補修及び改修によるメンテナンスは営業に支障がないよう全店舗完了しており、結婚披露宴に関しましては引続き年間成約件数80件を目指してまいります。

バイオ燃料事業の売上につきましては、当社が平成28年4月20日に公表しました「中期経営計画策定のお知らせ」(注1)にてお知らせのとおり、メキシコ、タイ、ベトナムにおいて現地法人を通じ営業活動を実施しており、平成29年3月期第3四半期以降も引続き中期経営計画の達成を目指し取組んでまいります。また、各国共通事項として当社が予定した時期及び予定した販売先との契約締結が行えない場合、その他、天候不順等による種子の不作の場合、期待した程の収穫量が確保できない場合、バイオ燃料の需要や市場規模が想定したとおりの拡大をしない場合、販売網の整備状況等により当社の想定したとおり拡販しえない場合、現時点においては認識していないものの、他社の新規参入による競争激化によりバイオ燃料としての価格優位性が低下した場合等によりバイオ燃料事業の売上計上が予定どおり計上できないことも予想され、不確定要素もありますが、現時点における業績予想の修正は行わず引続きレンジ形式での予想とさせていただきます。

(注1) 平成29年3月期における各事業の展開につきましては、当社が平成28年4月20日に公表しました「中期経営計画策定のお知らせ」をご参照願います。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、第1四半期連結会計期間より、重要性が増したSUPER Sorghum Mexico, S.A. DE C.V.を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで過去7期連続（単体は7期連続）して営業損失を計上しております。これにより継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象または状況が存在していると認識しております。このような状況を解消するために当社グループは、バイオ燃料事業においては、当第2四半期連結累計期間におけるメキシコでのスーパーソルガム種子販売105.40tにより2億29百万円の売上を計上しました。また、平成28年9月末時点におけるメキシコからのスーパーソルガム種子発注合計は、610.40t（内納品済105.40t）であり、中期経営計画にて策定しました販売計画に基づき推移しております。今後も中期経営計画達成に向けさらなる受注獲得を目指してまいります。また、タイにつきましては、国立カセサート大学による試験栽培のレポート提出を待ち、引続きSORG JT 社とのスーパーソルガム種子の受注に関する契約に向けて協議を進め売上計上に繋げてまいります。レストラン・ウエディング事業につきましては、一部の不採算店舗閉店による赤字幅の圧縮、人材の配置転換、仕入先の改選、一部店舗の営業時間見直し等の実施により業務の効率化を図り、引続きコスト削減に努めます。これらの収益構造の改善によって年間70百万円の赤字解消を見込んでおります。今後も上記の着実な実行を図ることにより、安定的に営業利益及び営業キャッシュ・フローを獲得できる体制の構築に取り組んでまいります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	236,315	188,347
受取手形及び売掛金	438,055	615,224
商品及び製品	382,828	96,711
仕掛品	18,352	30,396
原材料	7,034	5,730
前払費用	48,929	57,066
前渡金	3,356	10,609
短期貸付金	102,079	315,028
貸倒引当金	—	△20,044
その他	131,889	63,968
流動資産合計	1,368,840	1,363,039
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	97,557	101,944
減価償却累計額	△36,450	△40,072
建物及び構築物(純額)	61,107	61,872
機械装置及び運搬具	26,194	26,171
減価償却累計額	△11,311	△13,989
機械装置及び運搬具(純額)	14,883	12,182
工具、器具及び備品	284,192	282,669
減価償却累計額	△261,384	△263,169
工具、器具及び備品(純額)	22,808	19,499
有形固定資産合計	98,799	93,554
無形固定資産		
ソフトウェア	4,428	3,817
のれん	311,262	249,009
営業権	80,944	57,500
その他	690	6,341
無形固定資産合計	397,325	316,669
投資その他の資産		
投資有価証券	70,205	84,557
敷金及び保証金	183,860	162,154
破産更生債権等	110,795	110,795
貸倒引当金	△110,795	△110,795
その他	9,770	13,582
投資その他の資産合計	263,835	260,294
固定資産合計	759,960	670,518
資産合計	2,128,800	2,033,557
負債の部		
流動負債		
買掛金	44,152	17,977
短期借入金	200,000	300,000
未払金	245,375	203,163
未払法人税等	8,976	10,026
賞与引当金	19,523	22,731
受注損失引当金	—	1,345

その他	142,930	96,067
流動負債合計	660,959	651,312
固定負債		
繰延税金負債	40,918	11,536
資産除去債務	49,827	50,061
その他	73,285	70,674
固定負債合計	164,030	132,271
負債合計	824,989	783,583
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,706,626	2,960,793
資本剰余金	3,328,440	3,582,607
利益剰余金	△4,680,186	△5,385,636
自己株式	△83,004	△83,004
株主資本合計	1,271,876	1,074,760
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	23,272	150,004
その他の包括利益累計額合計	23,272	150,004
新株予約権	8,662	25,208
純資産合計	1,303,810	1,249,973
負債純資産合計	2,128,800	2,033,557

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	1,393,934	1,399,117
売上原価	788,144	897,770
売上総利益	605,789	501,346
販売費及び一般管理費	1,450,794	1,008,161
営業損失(△)	△845,005	△506,814
営業外収益		
受取利息	149	901
受取手数料	1,256	131
雑収入	893	4,207
補助金収入	—	5,114
営業外収益合計	2,299	10,355
営業外費用		
支払利息	2,087	5,360
為替差損	18,979	169,172
株式交付費	—	4,840
その他	2,930	1,141
営業外費用合計	23,997	180,516
経常損失(△)	△866,703	△676,975
特別利益		
固定資産売却益	1,933	—
新株予約権戻入益	2,112	5,026
その他	103	—
特別利益合計	4,149	5,026
特別損失		
固定資産除却損	104	516
減損損失	52,719	—
たな卸資産廃棄損	1,244	—
特別調査費用	16,264	—
その他	114	—
特別損失合計	70,447	516
税金等調整前四半期純損失(△)	△933,001	△672,465
法人税、住民税及び事業税	5,375	7,981
法人税等調整額	△3,622	△29,381
法人税等合計	1,752	△21,400
四半期純損失(△)	△934,754	△651,065
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△934,754	△651,065

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純損失(△)	△934,754	△651,065
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	18,404	126,731
その他の包括利益合計	18,404	126,731
四半期包括利益	△916,349	△524,333
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△916,349	△524,333

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

当社グループは、前連結会計年度まで過去7期連続(単体は7期連続)して営業損失を計上し、当第2四半期連結累計期間においても、営業損失506,814千円を計上しております。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は当該状況を解消すべく、バイオ燃料事業においては、当第2四半期連結累計期間におけるメキシコでのスーパーソルガム種子販売105.40tにより、229,155千円の売上を計上しました。また、平成28年9月末時点におけるメキシコからのスーパーソルガム種子発注合計は、610.40t(内納品済105.40t)であり、中期経営計画にて策定しました販売計画に基づき推移しております。今後も中期経営計画達成に向けさらなる受注獲得を目指してまいります。また、メキシコ合衆国農畜水産農村開発食糧省(SAGARPA)より公式認定作物として栽培マニュアルへの登録も決定されたことから、今後、メキシコ国内においてスーパーソルガムの栽培が推奨されることで、さらなる受注獲得を目指してまいります。タイにつきましては、タイ農業省から年間を通じた収量を確認したいとの要望を受け、昨年6月からタイ国内において実施しました複数品種による性能比較試験(試験栽培)が平成28年6月に完了し、新たにタイ農業省指定の国立カセサート大学が加わり試験栽培の結果を受け、レポート作成を依頼し完了を待つ状態です。当社としましては、タイ国立カセサート大学、販売先であるSORG JT社との間で引き続きスーパーソルガム種子販売に関する契約に向けて協議を進め売上計上に繋げてまいります。レストラン・ウェディング事業につきましては、一部の不採算店舗閉店による赤字幅の圧縮、人材の適材適所の配置転換、仕入先の改選、一部店舗の営業時間見直し等の実施により業務の効率化を図り、引続きコスト削減に努めます。これらの収益構造の改善によって年間70,000千円の赤字解消を見込んでおります。今後も上記の着実な実行を図ることにより、安定的に営業利益及び営業キャッシュ・フローを獲得できる体制の構築に取り組んでまいります。

しかしながら、これらの施策については、受注動向や経済環境によって影響を受ける可能性があるため、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

当第2四半期連結累計期間において、当社が発行いたしました新株予約権の行使により、資本金が154,167千円、資本準備金が154,167千円、第三者割当による新株式の発行により資本金が99,999千円、資本準備金が99,999千円それぞれ増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,960,793千円、資本剰余金が3,582,607千円となっております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。